

令和5年度（2023年度）

第2回知床世界自然遺産地域連絡会議

議 事 録

日 時：2024年3月26日（火）午後1時開会
場 所：斜里町産業会館 2階大ホール

1. 開会

●北海道（遠藤） ただいまから、令和5年度第2回知床世界自然遺産地域連絡会議を開催いたします。

本日は、大変お忙しい中をお集まりいただき、お礼を申し上げます。

本日の進行を務めさせていただきます北海道環境生活部自然環境局自然環境課の遠藤と申します。よろしくお願いいたします。

今回の地域連絡会議は、斜里町での開催としておりますが、Zoomによるオンライン会議システムを併用しています。オンライン参加の皆様につきましては、発言時を除いて音声をオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、参加者の皆様へのお願いです。

ご発言の際には、ご所属とお名前を名のってからご発言願います。

2. 挨拶

●北海道（遠藤） ここで、開会に当たり、会長であります北海道環境生活部自然環境局長の竹本よりご挨拶を申し上げます。

●竹本北海道自然環境局長 皆様、こんにちは。

本日は、年度末の大変お忙しい中、令和5年度第2回知床世界自然遺産地域連絡会議にご参集いただきまして、ありがとうございます。

本日は、斜里町、羅臼町の両町長にご出席いただきまして、また、環境省釧路自然環境事務所様、林野庁北海道森林管理局様、北海道開発局様、北海道運輸局様、北大の中村先生、下鶴先生、地元の団体の皆様と多数のご出席をいただいております。誠にありがとうございます。

本日お集まりの皆様におかれましては、日頃から知床遺産の保全管理にご尽力をいただいておりますことに、この場を借りてお礼申し上げます。

この連絡会議は、知床の保全管理の推進のため、地域の皆様からのご意見を伺いまして、世界遺産地域の管理に生かしていく重要な場でございます。

本日は、行政機関における実施事業の取組状況や、科学委員会、各部会などにおきます検討状況についてご報告いただくことになっております。また、遺産管理計画の見直しなどについて引き続きご議論いただくほか、ヒグマワーキンググループの委員であります北大の下鶴准教授から、「2023年のヒグマの大量出没はなぜ起きたか？」というご講演をいただくこととなっております。

知床の遺産価値をよりよい形で引き継いでいくため、改めて、本日お集まりの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

●北海道（遠藤） 続きまして、環境省釧路自然環境事務所の岡野所長よりご挨拶をいた

だきたく存じます。

●岡野環境省釧路自然環境事務所長 皆さん、こんにちは。

環境省釧路自然環境事務所長の岡野でございます。

知床科学委員会の事務局長ということで、ご挨拶をさせていただきます。

本日は、年度末のお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

地域の多様な皆様が集まっていられる地域連絡会議、有識者が集まる科学委員会が二つの輪になって進んでいくというのが知床で生み出された世界遺産の管理の在り方ということで、これは全国に波及しているところでございます。

個人的には、私も、20年前の世界遺産登録直後に、世界遺産の担当として地域連絡会議に参加させていただいておりまして、そのときから地域の皆様には様々なことを教えていただき、いろいろなことをご協力をいただいているところでございます。改めて、お礼を申し上げます。

本日の連絡会議の中では、先ほど局長からもお話がありましたけれども、遺産管理計画の見直しにつきまして、これまでの科学委員会の議論を踏まえて皆様にお諮りをしたいと思っております。

この管理計画については、昨年もお議論いただいているところですが、地域の皆様方が、知床の価値を改めて確認して、それをしっかり伝えていく、そして、それを将来に引き継ぐ保全の力にしていく、そういったところを改めて整理しようということで、修正等を加えてきたものでございます。今回、最終案という形でご確認いただけましたら、意見募集をさせていただいて、最終的な決定していきたいと思っております。

今年が知床国立公園の60周年、来年が世界遺産登録20周年となります。管理計画も20周年に合わせて改定という形になればと思っておりますけれども、あわせて、現在、北海道庁、林野庁、斜里町、羅臼町の5者で周年事業の計画を立てさせていただいておりますので、それについても後ほどご説明をさせていただきます。

改めて、知床の価値をしっかりと残していく、そして、残してきたものが日本や世界に対してどういう意味を持つのか、これをしっかりと発信していく、来た人にも、あるいは来る前から知床の持つ価値をもっと知っていただく、そういったことをこの機会に進めていき、ここは大切な場所なんだ、守っていくんだといった保全の力になるように、この周年事業を機会に進めていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をいただければと思っております。

本日も、どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

続きまして、斜里町の山内町長よりご挨拶をいただきたく存じます。

●山内斜里町長 皆さん、こんにちは。

斜里町の山内でございます。

本日は、令和5年度第2回知床世界自然遺産地域連絡会議ということで、開催地斜里町

の代表としてご挨拶申し上げさせていただきたいと思えます。

本日は、知床世界自然遺産に関わる多くの関係者、団体の皆様、そして、羅臼町、斜里町の関係者の皆様が一堂に会していただきました。知床世界自然遺産をどのようにして後世につげていくかというような管理、保全の協議をする場に多くの皆様のご参集を賜りまして、本当にありがとうございます。

また、年度末ということで、これまでのメンバーの中でも異動される方がおられると先ほどお聞きいたしまして、これまで賜ったご意見やご協力に改めて感謝を申し上げたいと思えます。これから異動されても、その先でしっかりと知床のことを思っていたいただければと切に願っているところございます。

本日は、環境省、林野庁、北海道からの実施事業の報告等がございますし、先ほど岡野所長からもございましたけれども、管理計画の見直しについて、最終報告ということでご提案されるそうでございます。

これから、世界の多くの人たちにこの地域における自然と人間の共生の姿を見ていただく、そして、そこに人間が介在するということでは、いかんせん、何か管理をしていかなければいけないことになっていくわけでございます。そういった意味合いからも、このすばらしい知床をしっかりと保全していくところを多くの人たちに見ていただき、感じていただき、学んでいただく、そんな地域をつくり上げていければと考えてございます。

昨年は、異常気象ということで、ヒグマの発生がこの地域は非常に多うございました。昨年11月の会議でも出てございましたけれども、今まさに北海道ヒグマ管理計画が議論されているところでございまして、今日は、下鶴准教授からそういったお話が聞けるということで、タイムリーであると思っております。

また、岡野所長からもございましたけれども、今年の知床国立公園の指定60周年と来年の世界自然遺産20周年に関するそれぞれの周年事業等々のことについてもご協議いただけるということでございます。

我々斜里町も、羅臼町とともにしっかりと対応させていただき、多くの人たちに知床を理解していただければと考えてございます。

本日は、多くの皆様のご意見を賜りながら、有意義な会議になりますことをご祈念申し上げ、簡単ではございますが、開催町としてのご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

◎連絡

●北海道（遠藤） それでは、議事に入ります前に、資料の確認ですが、次第の裏面に配付資料の一覧がございます。資料1-1から資料6、参考資料1まででございます。不足等がありましたら、事務局までお申出願います。

3. 議事

●北海道（遠藤） それでは、議事次第に沿って進めてまいります。

議事（1）、資料1-1の環境省、林野庁、北海道の実施事業報告ということで、それぞれが今年度を実施した事業を一覧にまとめておりますが、環境省から特に説明はございますか。

●環境省（伊藤） 環境省釧路自然環境事務所の伊藤でございます。よろしく願いいたします。

資料1になります。

環境省では、例年どおりの取組を進めてまいりました。前回、第1回地域連絡会議で進捗報告をさせていただいたものを実施してきたということになります。エゾシカ対策、ヒグマも含めた管理計画に基づく対策、長期モニタリング計画に基づく各種調査、それから、登山道の維持管理と年次報告書である知床白書の作成、公開という形で今年度も進めてまいりました。

以上でございます。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

それでは、林野庁さん、いかがでしょうか。

●林野庁（川崎） 知床森林生態系保全センターの川崎です。

林野庁につきましては、1ページ目の7番から裏面の11番までが該当でございます。こちらに書いてございますように、例年どおり、各種対応をさせていただきました。

以上でございます。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

北海道からは、特に報告事項はございません。

それでは、皆さんからご質問、ご意見がありましたら、挙手をお願いいたします。

ご発言の際は、所属とお名前をお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） もし質問があれば、最後に総括してお受けしたいと思います。

では、次の議事に移りたいと思います。

続きまして、資料1-2、エゾシカ対策事業の結果についてですが、遺産地域内について、環境省から資料の補足説明などはございますでしょうか。

●環境省（伊藤） 環境省の伊藤でございます。

資料1-2の1ページになります。環境省としましては、知床岬、ルサー相泊、幌別-岩尾別で、例年どおりエゾシカ対策を進めまして、各結果をこのように記載してございます。

以上でございます。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

それでは、資料をめくっていただいて、2と3は隣接地域についてですが、林野庁、斜

里町、羅臼町から補足説明などはございますでしょうか。

●林野庁（寺田） 知床森林生態系保全センターの寺田です。

2 ページ目ですが、林野庁の隣接地域でのエゾシカ捕獲事業では、今年度、ウトロ地区、オシンコシン地区、春荊古丹地区で捕獲を実施しまして、合計 73 頭の捕獲となっております。

以上です。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

ほかに補足等はございませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） それでは、資料 1-2 について、皆さんからご質問等がありましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） それでは、次の議事に移らせていただきます。

続きまして、議事（2）は下部部会からになりますので、それぞれ報告をお願いいたします。

まず初めに、知床ヒグマ対策連絡会議からお願いいたします。

●林野庁（川崎） 知床森林生態系保全センターの川崎でございます。

今年度の知床ヒグマ対策連絡会議の事務局を担当させていただいております。

資料 2-1 をご覧ください。

こちらの資料は、前回 11 月の第 1 回地域連絡会議から変わった部分を中心にご説明させていただきます。

1 ページ目の一番最初のヒグマ目撃件数などですが、目撃件数につきましては、合計 2,537 件ということで、昨年度よりも大きく増加しております。対応件数につきましても、合計 1,682 件ということで、こちらも大きく増加しております。有害捕獲頭数についても、合計 128 頭と大きく増加しております。

1 ページ目の後半以降につきましては、前回の地域連絡会議から変わっておりませんので、後ほどご覧いただければと思っております。

資料にはございませんけれども、知床ヒグマ対策連絡会議のメンバーで今年度実施してきたヒグマ対策について簡単にご紹介させていただきますと、住宅地等への侵入防止用の電気柵の設置や管理、パトロールや出没状況の把握、住民や利用者に対する啓発活動、市街地に出没した際のケーススタディーの実施などがございました。

対策連絡会議では、これからの対策についても議論をして進めていくというふうにしておりまして、ヒグマワーキングも委員の皆様のご助言を賜りながらその対策を進めていくこととしております。

引き続き、地域の皆様におかれましても、ご協力のほどをよろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

それでは、資料2-1の今のご説明につきまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

クマの問題に関しましては、先ほど来ありましたように、今年度は、道内のみならず、全国的に異常な事態になっているところで、知床もまた例外ではないということで今もご説明がありましたが、実際に対応されている斜里町さん、羅臼町さんから何かございますか。

●斜里町・羅臼町（増田・田澤） 第1回でお話ししましたので、特にございません。

●北海道（遠藤） 分かりました。どうもありがとうございます。

続きまして、シンボルマーク部会から報告をお願いいたします。

●北海道（真野） 北海道の真野です。

続いて、資料2-2をご覧ください。

今年度のシンボルマークの使用申請状況等についてですが、今年度の申請許可件数は、現在のところ1件となっております。

シンボルマーク部会では、今年度にシンボルマーク利用規定の改定を行っておりまして、これまで、シンボルマーク申請の条件を斜里町または羅臼町に住所を有する個人や団体に限定していましたが、これを改定しまして、斜里町または羅臼町の主原料を用いて生産された商品の販売において、その主原料の生産地が証明できれば、斜里町、羅臼町以外に住所を置く個人、団体等も申請可能としました。

今回許可した事業者につきましては、大分県の食品製造業者で、羅臼昆布を原材料に使用して、つくだ煮を製造、販売する事業者です。

シンボルマーク部会からは以上です。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

ただいまの資料2-2の報告に関しまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） なければ、次に、適正利用・エコツーリズム検討会議からご報告をお願いいたします。

●環境省（西村） 環境省の西村です。

適正利用・エコツーリズム検討会議からご説明させていただきます。

まず、一つ目に、エコツーリズムワーキングと検討会議の開催概要になりますが、今年度、ワーキングを2回、検討会を1回と、例年どおり実施いたしました。

主な議事内容としましては、遺産管理計画の見直しや知床エコツーリズム戦略の見直し方針を中心に議論いたしました。

そこでいただいた主な意見、指摘事項は、以下の5点になりますが、議論の中心であった②と③の遺産管理計画の見直しとエコツーリズム戦略への反映についてご説明させてい

ただこうと思います。

②の遺産管理計画の見直しにつきましては、以下の点以外に大きな見直しはワーキングとしてはないということで、まず、知床が有するその他の価値の項目について、知床は、手つかずの原生環境ではなく、先史時代から人間との関わりの中で成立してきた自然環境であることを追記すること、巻末に関していろいろ追記するというご意見をいただいたところでございます。

③は、遺産管理計画の見直しを受けた戦略の反映です。

まず、エコツーリズム戦略は、将来、こうしていきたいというあるべき姿を示すとともに、具体的な実現方法や、そのために実現するべき内容が書かれた実行計画として策定することとしました。

また、良質な自然体験の提供という方針から、来訪者との共創による価値の創出に転換するために表現を改める、そして、守るべき価値、伝えていくべき価値は、時代とともに変化する、また、来訪者のタイプや目的も変化することを念頭に置いて改定する、そして、ゾーニングについては現在のゾーニングを整理して示す、それ以外に、利用者とも共有可能な利用のゾーニングも検討が必要であるといったご意見、ご指摘をいただいたところでございます。

続いてのページで、3は今後の予定になりますけれども、令和6年度は2回程度の開催を予定しております。ワーキング2回、検討会議2回を予定しているところです。

報告は以上になります。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

ただいまの報告に関しまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） なければ、次の議事に移ります。

議事（3）科学委員会からの報告について、まず、事務局より各ワーキンググループのトピックスをお知らせいたします。

●北海道（真野） 北海道の真野です。

資料3につきましては、トピックスを表紙に記載させていただきました。

まず、エゾシカワーキンググループです。

令和6年度に知床岬地区において通信環境整備に関する工事が実施されることを受け、知床岬地区での今後のエゾシカ対策を集中的に議論しました。

次に、ヒグマワーキンググループからです。

今年度の大量出没の状況と背景を確認の上、今後の方策等について議論しました。

海域ワーキンググループからは、第4期知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画の英訳版について、知床データセンター等で公開します。

河川工作物AP会議からは、引き続き、河川工作物の改良を行っておりまして、ルサ川、オッカバケ川、サシルイ川、ルシャ川における河川工作物について、専門家からの技術的

助言を得ながら会議を進めております。

以上となります。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

それぞれのトピックについては今お伝えしたとおりですけれども、科学委員会も含めまして、各ワーキンググループから特に補足説明を要する事項等がございましたらお願いいたします。

科学委員会からはいかがでしょう。

●環境省（伊藤） それでは、資料3の2枚目以降が科学委員会のご報告の抜粋となります。

先ほど、岡野からも申し上げましたとおり、地域連絡会議と科学委員会の両輪で遺産管理を進めているものでございまして、今回、2月19日開催された科学委員会でのポイントをご説明したいと思います。

2枚目が資料3-1となっておりますが、議事概要については（1）から（7）まで7点ございまして、後ほど、それぞれ個別にご説明いたします。

ただ、（1）の委員の新体制につきましては、長年お世話になりました梶先生が退任されたということと、次年度から河川工作物アドバイザー会議のト部先生が新委員として就任されることとなりました。

それから、（5）の第2期長期モニタリング計画・総合評価手法については確認が進んだということでございます。

その次のページの資料3-1（別紙）になりますが、気候変動に対する順応的管理戦略の検討方針についてということで、科学委員会で集中的にご議論いただくための第一歩となるような議論が開始されたということになります。

知床が自然遺産地域であるということを考えますと、知床の価値というものが、海氷の形成の影響を受けた海域等の生産性の高さ、それから、陸域の生態系との相互作用に依存しているということで、気候変動による影響を大きく受ける可能性がありまして、以前より、世界遺産委員会からも気候変動に対する戦略の策定が求められているところでございました。

そこで、この遺産価値を将来にわたり維持していくことを目的として、気候変動に対する適応策と申しますか、順応的にどうやって管理を行っていくかというところの方策を戦略としてまとめるものとして検討を開始したものでございます。

ページをめくっていただきまして、2ページの3番の適応策検討の主な視点としまして、その検討を進める上でのポイントとなる事項としては、赤色の線を引っ張ったところになりますが、例えば、①気候変動の影響を評価するため、現状をどうやって把握しようかというところ、②生物多様性分野の気候変動の予測や評価、その影響のモニタリングをどうしていくか、こういったところをポイントとして、これから検討を進める、戦略をまとめていくことになってございます。

続いて、4番目の検討の方針（概要）でございますけれども、先ほどの赤線を引いた①

から⑧について、では、どういう検討をしていこうかというところを整理したものです。

特に今回重視したところは、②に図示しております気候変動シナリオと呼んでいるものです。もし気温が上昇したときに、どういうふうに生態系の中に影響が波及して、最終的に遺産価値に対してどういう影響が出ていくのか、そして、その影響が出てきた場合に、どういったモニタリングをしておけば気候変動の兆候であることが確認できるのか、あらかじめ想定しておけば、気候変動による兆候が、随時、長期モニタリング計画に基づくモニタリングの結果から判定していけるのではないかということを考えて、それぞれこういう図をつくっております。

本日の資料では、高山植生に対するインパクト、影響の連鎖を例示的にお示ししておりますが、海域の魚類であるとか、浅海域の生物相であるとか、エゾシカ、ヒグマ、それぞれの気候変動シナリオをつくって、そのシナリオに基づいて、気候変動が起こっているのであれば、どういった対策が必要なのかということを考えていく基礎材料とするところまで今回は検討を進めてございます。

以上が気候変動のところですが、次のページをめくって、資料3-2でございます。

科学委員会、ワーキンググループの実績ということで、今年度の1年間の実績と、その次のページがワーキングの一覧となっております。

続きまして、資料3-3-1ということで、科学委員会の下部ワーキングの一つであるエゾシカワーキングではどういうことが議論されたかということをご報告いたします。

一つは、知床岬地区におけるエゾシカ対策についてですが、令和6年度になりますと、通信環境整備のための工事の実施によって、作業員の立入り、工事の実施が予定されていますので、グリーンシーズンといいますか、春から夏にかけての捕獲というのは、工事関係者への安全も含めて、また、人が入ることでエゾシカがそこには寄りつかないだろうということもありまして、令和6年度はエゾシカ対策は取りやめまして、その機会をエゾシカ対策の手法を再構築する機会として利用したいと考えているところです。

次に、植生モニタリング結果についてです。こちらについて、先生方にモニタリング結果を読み取っていただきますと、知床岬では、特に、草原部においては開花株が増えてきたということもあって、回復傾向が維持されていると読み取って差し支えないと。

一方で、森林については、閉鎖林冠下で光資源が足りないということも主因となっておりますし、そもそも森林はそんなに急速に回復していくものではないということで、現状としては回復傾向はまだまだ読み取れていないのではないかというご指摘もございました。

続きまして、資料3-3-2のヒグマワーキングです。こちらについては、今年度の大量出没の状況と背景について議論が行われました。短期的には、やはり、餌資源の不足ということで、サケ、マス、ハイマツ、ミズナラの凶作というところもあります。

こういうことを受けて、後ほど下鶴先生のご講演もご準備されているということでございますが、今後、知床でヒグマの個体群をどういう水準で維持していくのが妥当なのかというところを再検討すべきではないかといったご意見も出てきていました。

ページをめくっていただきまして、④の特に地元関係者による出沒対応についてということで、今年度の大量出沒で、地域の方々、公園利用者、観光客の方々に人身事故がなかったことは、地元の関係者の皆様方の多大なご努力のおかげであるということで、ヒグマワーキングでも先生方からそのようなご発言がございましたし、科学委員会の場でもございました。

エゾシカとヒグマワーキングからのご報告は以上でございます。

●北海道（遠藤） どうもありがとうございました。

今、科学委員会、エゾシカワーキング、ヒグマワーキングまでご説明いただきましたが、続いて、海域ワーキングから補足がありましたらお願いします。

●北海道（真野） 初めに開催状況についてですが、昨年1月に第1回ワーキンググループを斜里町において開催しました。本年2月に第2回ワーキンググループを札幌市において開催しました。

主な議事内容ですが、長期モニタリング項目評価調書（案）について、調書の記載内容の検討及び算出データに基づく評価を行いました。定期報告書につきましては、知床データセンター等において公開します。

第4期知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画の英訳版につきましては、内容の確認、検討を行いました。

地域管理計画第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価について、海域ワーキンググループ所管部分の確認、検討を行いました。

世界遺産委員会決議に対する保全状況報告について、トドに関する回答作成に係る作業方針の確認及びウミドリに関する回答素案の確認、検討を行いました。

来年度の開催予定ですが、第1回目を7月頃に羅臼町で、2回目を令和7年2月頃に札幌市内での開催を予定しております。

以上になります。

●北海道（遠藤） ありがとうございます。

続いて、河川工作物アドバイザー会議のほうで補足等はありませんでしょうか。

●林野庁（岩本） 第2回会議を2月2日に札幌で開催しております。

資料3番の河川工作物についてのところに記載しておりますように、各河川、ダムについては、今後も専門家、先生方の技術的な助言を得ながら、対応を進めていく予定としております。

以上でございます。

●北海道（遠藤） どうもありがとうございました。

続いて、適正利用・エコツーリズムワーキングから補足はございますでしょうか。

●環境省（伊藤） 先ほどの議事の中で、適正利用・エコツーリズム検討会議と併せてご説明させていただきました。

●北海道（遠藤） どうもありがとうございました。

それでは、今の資料3のご説明に関しまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。

●ウトロ地域協議会（桜井）　ウトロ地域協議会の桜井と申します。

ヒグマワーキンググループの取組に関して伺いたいことがございます。

今回、このように駆除された部分で、二、三年前に、ヒグマのDNAで個体数の調査が行われていたと思います。

今回、国立公園内外からの出没と書かれているのですが、これら駆除された個体というのは、DNAの個体一斉調査をしたときのデータと照らし合わせて個体識別をされて、このデータに基づいて出てきている数と考えてよろしいでしょうか。

というのは、三百何頭だったと思うのですが、DNAの個体識別で総数が分かっていて、今回、3町より183頭が駆除されたということですが、183頭が過去にDNAの個体数調査をしたときの数とほぼ一致すると考えていてよろしいのでしょうか。

●環境省（伊藤）　環境省の伊藤でございます。

まず、ヒグマにつきましては、ヒグマ管理計画に基づきまして、問題個体とされるものについて駆除が進められたところがございますが、おっしゃるとおり、今年は非常に大量出没の中でこれだけの捕獲数があったところです。

令和5年度から、今日お越しになられている下鶴先生のご協力を得まして、その問題個体も含めた形でサンプルを取りまして、全てDNA分析を先生にさせていただいているところですので、その辺の系統や科学的な根拠は調査で得られているところです。

ただ、今年度、ここまで大量出没があるとは予想できなかったところがありまして、ちょっと予算不足ということもございましたので、下鶴先生のところに検体はあったとしても、こちらからの予算不足のため、まだ分析ができていないものもあるとお聞きしております。ですから、来年度以降、その辺のデータもどんどん蓄積されていくという計画にしております。

●ウトロ地域協議会（桜井）　分かりました。

地域では、今回、これだけの駆除を経て、その前段ですっと行われていた調査の中で、例えば、出没しやすい系統の親戚関係とか親子関係があったのか、それが知床に独特なものがあるのかということに関してはどうなのか、あるいは、ずっと駆除をされていて、危険だという話になっているのですが、かつてのように物すごく数が減ってしまわないかという懸念と同時に、これからも危険になったときにはある程度の頭数調整が必要ではないかなど、様々な意見が出ています。

その基本となるものが3年ぐらい前にやったDNAの個体調査のデータに基づいているのであれば、知床の今後の熊対策に関してもある程度静観していただけるのではないかという意見もさきの会議の中で出ていたものですから、伺ってみました。

ありがとうございました。

●北海道（遠藤）　ありがとうございました。

ほかにご質問等はございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●北海道(遠藤) なければ、次の議事に移りたいと思います。

議事(4)の知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについてですが、各ワーキンググループや科学委員会での検討を受けまして、最終案の取りまとめをしたものになります。

本日は、見直しを行ったポイントや今後の予定についてご確認いただきたいと思います。

それでは、環境省からご説明をお願いいたします。

●環境省(伊藤) 環境省の伊藤でございます。

資料4の遺産管理計画の見直しの資料でございますが、地域連絡会議の皆様には、昨年度から引き続きご確認いただいております。その結果、科学委員会でのご議論も含めまして、ほぼご意見が出そろった状況になってございました。そして、頂戴したご意見は全て反映した最終版として、本日ご提示しております。

この遺産管理計画の策定主体は、資料の3枚目のこれが表紙に当たりますが、ここに掲げてございますように、環境省、林野庁、文化庁、北海道の4者でございます。ただ、現行の管理計画の記載に基づきまして、計画の見直しに当たっては地域連絡会議にて内容の合意をいただくことになっておりますので、本日、最終案としてよろしければご了解いただければと思っております。

なお、今後の進め方でございますが、新年度になりましたら、環境省釧路自然環境事務所のホームページ上にこれを掲載しまして、広くご意見を募集したいと思います。このようなパブリックコメントの手順を経まして、その後、来年度の第1回地域連絡会議で意見募集の結果をご報告し、ご確認いただいた上での内容確定という流れを想定してございます。

中身につきましては、ほぼ前回の第1回地域連絡会議でもご確認いただいたものでございまして、その際には修正履歴も残していたかと思いますが、本日は、その修正履歴も全て反映した最終案という形になってございます。

以上でございます。

●北海道(遠藤) どうもありがとうございました。

ただいまの資料4のご説明に関するご質問やご意見などございましたらお願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

●北海道(遠藤) 前回のご議論でパブリックコメントに関してのお話が出て、それを実施なさるというご説明がありましたけれども、時期的にどのぐらいになるかといったスケジュールはもうあるのでしょうか。

●環境省(伊藤) パブリックコメントですが、時期的には、本日ご了解いただければ、4月か、5月早々には準備を進めてまいりたいと思っております。

●北海道(遠藤) どうもありがとうございました。

ほかに何かご意見等はございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●北海道(遠藤) なければ、次の議事に移りたいと思います。

議事(5)の第45回世界遺産委員会決議に係る対応について、環境省からご説明をお願いいたします。

●環境省(伊藤) それでは、環境省からご説明いたします。

資料5ですが、第45回、去年9月に世界遺産委員会で決議された内容に対して、2024年12月に保全状況報告として回答することになりますので、そのための作業方針の案でございます。

ページをめぐっていただきまして、1ページ目からが、それぞれの勧告に対して、どういうふうにつくっていかうかというところを赤色でお書きしたものです。

まず、勧告3については、気候変動の影響がより大きな懸念を引き起こしていることと、その影響をモニタリングするためのデータが不足していることに留意して、先ほど申し上げた最終的な気候変動の戦略を世界遺産センターに提出するようということが要請されていたものでございます。

これに対しては、先ほど申し上げた気候変動による戦略をきちっと検討して行って、検討した結果をこの保全状況報告に添付することを予定してございます。

続いて、4番と5番がトドに関する勧告でございました。こちらについては、海域ワーキングの助言を得て、現在、水産庁でトド管理基本方針を見直す作業を行っているところと聞いております。これに基づいて、海域ワーキングのほうでこの見直し内容を踏まえた回答素案を作成して検討を進めるという方針でございます。

6番目は、特にウミドリの個体数が減っているのではないかという懸念が表明されております。こちらにつきましては、長期モニタリング計画でもモニタリングしておりますので、モニタリングの継続によって関連性を検討していくという方向性で検討を進めています。

7番目は、長期モニタリング計画にきちんと遺産価値を反映して実行していくようにという勧告に対して、そのように進めていますという回答になると思います。

8ページ目の河川工作物に対する勧告ですが、前々回の勧告でも同じような勧告を受けておりまして、先ほど森林管理局からのご説明にもありましたように、河川工作物に対する改良工事を順次進められ、改善が図られているところがありますので、これについて記述をしていく予定でございます。

4ページ目が最終的な作業スケジュールになりますが、基本的には、4月、5月、6月で今の作業方針に基づいてワーキングの検討を行いまして、7月の科学委員会、10月の地域連絡会議でご確認いただきながら、関係機関で資料を整えていく予定でございます。

以上となります。

●北海道(遠藤) どうもありがとうございました。

ただいま、世界遺産委員会決議に係る対応について、全体的なご説明をいただきました。
勧告内容について、それぞれのワーキンググループのマスターになっているものに関して
補足等がもしあればお願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

●北海道(遠藤) それでは、今の資料5のご説明に関しまして、ご質問等があればお願い
いたします。

(「なし」と発言する者あり)

●北海道(遠藤) それでは、次に下鶴先生にご講演をいただく予定でいますけれども、
皆様のご協力によりまして、大分早めに進行しておりますので、今までの資料のご説明に
関してご質問等があればお受けしたいと思います。

特にございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●北海道(遠藤) それでは、一旦、休憩を挟みまして、先生の講演をお願いしたいと思
います。

では、休憩いたします。

[休 憩]

●北海道(遠藤) お時間になりましたので、再開させていただきます。

続いて、下鶴先生のご講演と案内させていただきましたけれども、予定を変えまして、
先生の講演の後にご説明をする予定だった議事(7)その他について、先にさせていただ
きたいと思います。

(7)その他になりますが、資料6の知床国立公園60周年、世界遺産20周年記念事
業につきまして、環境省からご説明をお願いします。

●環境省(井村) ウトロ自然保護官事務所の井村と申します。

お手元の資料6をご覧ください。

私からは、知床国立公園60周年、世界遺産20周年記念事業について説明させていた
だきます。

第1回地域連絡会議が昨年11月にありましたので、それ以降に進んでいるところを中
心にご説明します。

1の目的ですが、前回書かれておりませんでした目的を決定しました。こちらに書いて
あるとおり、この目的を中心に、2年間にわたって記念事業を推進していきたいと思っ
ております。

次に、2の事業概要をご覧ください。

名称はこちらにあるとおりです。

実施期間は、前回より少し変更を加えまして、2024年4月から2026年3月まで

の2年間で事業を推進することにしました。

実行体制については変更はないのですが、先日、実行委員会設置要領を決めまして、策定し、本格的に事業を推進しているところです。

次に、周年記念事業のテーマです。

先日決まりましたので、記載できなかつたのですが、テーマを決めました。テーマは、「海と、森と、人がつなぐ。」と短くまとめまして、こちらを今制作中のポスターに印刷する予定です。ポスターができましたら、皆様にも共有できると思っております。

戻りまして、レガシーと書いてある部分です。

オリンピックなどでよく耳にするかもしれません。事業を通じて達成したい、事業後に残っているような達成したい目標を各関係機関で考えていただいて、これを広く周知していこうというふうに実行委員会でもとまりました。

今日、この機会に、それぞれの関係機関の皆様から、レガシーについて短く説明をいただいて広く周知したいと思っております。

まず、環境省から簡単に説明させていただきます。

●環境省（岡野） 環境省釧路自然環境事務所長の岡野です。

我々が周年事業を通じまして取り組みたいことは大きく二つを考えております。

一つは、目的にもありますけれども、知床ならではの価値を再認識するというところで、次年度以降、管理計画に基づきましてエコツアー戦略の見直しを進めてまいります。その中で、知床のストーリーを伝えていくような良質な自然体験の創出と、これらを持続可能に実施するためのルールやリスク管理について議論を深めていきたいと思っております。

あわせて、これまで地域で議論されてきています利用の心得を広く周知するとか、昨年、自然公園法の改正の中で制度化されましたヒグマへの餌やり、あるいは著しい接近やつきまといに対する規制を広く周知することによって、来訪者に対して適切な距離で自然に向き合い、そして楽しんでいただくということをしっかり伝えていきたいと思っております。

もう一つは、幅広い関係者とともに価値を次世代に継承する取組を進めるということでございますけれども、環境省としては、今ちょっと問題になっています五湖の園芸スイレンの除去でありますとか、登山道の維持管理に多くの皆様にご協力いただいて取組を進めていきたいというふうに考えております。

園芸スイレンの除去につきましては、ウトロ地区の皆さんからもご協力いただけるような申出もいただいておりますので、地域の皆さんと一緒にしっかりと取り組んで、こういった価値を将来に引き継ぐ取組を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

●環境省（井村） ありがとうございます。

林野庁からお願いします。

●林野庁（川崎） 北海道森林管理局の川崎でございます。

北海道森林管理局といたしましては、林野庁が遺産地域で実施する保護、保全に関する

取組を皆様に再度お知らせすることを通じまして、世界遺産や知床森林生態系保全地域の意義について、より知っていただく機会にしたいと考えてございます。

以上です。

●環境省（井村） ありがとうございます。

北海道からお願いします。

●北海道（高田） 北海道です。

北海道では、知床の自然環境をよりよい形で将来の世代に引き継いでいくことを目的としまして、平成27年度に知床の日を制定しております。

知床の日につきましては、遺産登録10周年を契機として制定したものでありまして、遺産登録20周年につきましては、同時に知床の日10周年となるものでございます。このため、今回の登録20周年に合わせて、知床の日のさらなる普及を図ることにより、知床の価値の再認識やさらなる理解を促進したいと考えております。

以上です。

●環境省（井村） ありがとうございます。

斜里町からお願いできますでしょうか。

●斜里町（増田） 斜里町です。

斜里町としましては、今回、この周年事業を通じて、人づくり、人材育成をレガシーとして考えております。

といいますのは、こちらの周年事業の目的自体で完結するものではなく、恐らく、次の30年に向けての取組になっていると思います。役場内部におきましても、19年前にダバンから遺産登録のお知らせの電話連絡を受けた役場職員もほぼ数少なくなってきて、世代交代も進んでおります。

また、地域においても20年前とは世代がだんだん変わってきている中で、今回、この周年事業を通じまして、行政内部、それから地域にとっても、改めて、次の30年を目指して持続可能な管理体制、遺産を持つまちとしても管理、保全に関われる体制をつくっていきたいと思っています。

また、今回、民間企業との連携、それから、直接、知床に住まわれていなくても、いろいろな意味で関わりを持っていただけるような、いわゆる関係人口的な形で関わっていただける方も含めて、人づくりをテーマに取り組んでまいります。

●環境省（井村） 最後に、羅臼町さん、お願いします。

●羅臼町（湊屋町長） 羅臼町の湊屋です。

今回、レガシーについて通知をいただいた中で、どう答えていこうかと考えていました。

実は、国立公園指定になって10年後でありますけれども、昭和49年9月に羅臼町と斜里町で知床憲章というものをつくっているのです。これは、知床の自然環境を人間生存の基盤であるとして、人類共有の財産として大切に保護し、永く子孫に伝えるため、国民の願いを込めて憲章を定めるという知床憲章を定めています。そのことを、羅臼町民に広

報でお配りさせていただきまして、一度、歴史的なものも含めてこれから先も考えていきましょうという投げかけをしました。

その中で、ふと気がついたときに、今、私たちがこうした会議をしているとか、これからどうしようという根底にある部分は何なのかといろいろ考える中で、実は、難しいことではなくて、例えば、知床とか北海道全体もそうでしょうけれども、特に知床は、オホーツク文化という中から、そこに住んでいる先住民の方々の思いや文化を継承しつつ、こういう地域が出来上がってきているということです。アイヌ民族の方とか、この後にロゴマークの話もありますが、ヒグマもキムンカムイとか山の神ということで、シャチもレブンカムイというふうに、本当に一つ一つを神としてあがめながら守ってきたという歴史をこういう機会にしっかり学んでいかなければいけないし、それを次の世代に継承していかなければいけないのではないかと感じています。

先住民の方々は、動物たちを神聖化したということもあるけれども、自分たちが自然と調和しながら生きていくために、いろいろなものを無尽蔵に供給してくれる地域ではあるけれども、無尽蔵には絶対に扱わないといいますか、自然への感謝とか、この地域には学ぶべきことがたくさんあるのだろうと思うのです。しかし、その理由などという方向に向けることを僕たちはずっとやってきたけれども、もしかすると、そのことをしっかりと伝えていくことで、これから10年、20年、30年、50年というその先までこの状態をいかに維持していくか、そこは歴史に学ぶべきことが多いのではないかと感じていますので、この60周年や20周年を契機にして、そういったことも皆さんで考える機会があってもいいと思っております。

以上です。

●環境省（井村） レガシーについては、各機関で書きつつ、推進してまいります。また、別の機会にレガシーについて周知できるような機会を考えております。よろしくお願いいたします。

次に、資料に戻っていただきまして、ロゴマークについて簡単に載せておりますが、このロゴマークを作成しました。今後、パンフレット、ポスターポストカード等の広報資材には、このロゴマークを使っていきたいと思っております。

周年事業の種別につきましては、二つに大別して進めてまいります。

一つ目は、実行委員会が主催する公式イベントです。もう一つは、各機関や地域が例年実施しているものに、ロゴマーク、冠をつけてタイアップ的にアピールするものとしております。

裏面の2ページをご覧ください。

現在予定している実行委員会主催の事業が四つございます。

(1) がメディア向けフォーラムで、こちらは東京都内で5月7日に予定しております。主に、都内の報道機関をお招きして、キックオフといいますか、周年事業をスタートするPRをする場と考えております。

(2) は、斜里町のゆめホールで6月1日に開催予定の知床国立公園指定60周年記念のシンポジウムです。こちらに関しては、基調講演に、先日、直木賞を受賞されました道東出身の河崎秋子氏をお呼びすることに決まっております。また、後半では、河崎氏も参加してのパネルディスカッションを予定しており、国立公園指定の記念にしたいと思っております。こちらも、皆様にぜひご参加いただけるように準備しております。

(3) は、9月になりますが、知床アドベンチャーフェスティバルと称しまして、2日間にわたって、アウトドアイベント、または映画祭等を同時開催して、啓発に生かそうと考えております。

(4) は、2025年になりまして、時期、内容等はまだ詰まっていますが、世界自然遺産登録20周年記念フォーラムとして準備中でございます。

次に、4番目の関連事業ですが、地域の皆様、団体や各機関が開催予定のイベントを一体的にPRするもので、先日、イベントのリストを掲載したイベントガイドを作成しましたので、こちらを近日中に共有できる予定です。こちらを観光施設等に置いて配布し、イベントガイドとして周知していく考えです。

また、紙媒体とは別に、予定ではありますが、特設のホームページをつくりまして、そちらでも、随時、イベント等の発信をしていく予定ですので、地域の皆様も、周年記念事業と一緒に祝っていきたいイベントがありましたら、ぜひ事務局にご相談いただき、そちらのほうも随時更新していこうと思っております。

今後といいますか、3月28日木曜日にマスコミ向けに報道発表を予定しておりますので、そちらでロゴマーク等の正式な発表を予定しております。

一旦、私からは以上です。

●北海道（遠藤） どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの資料6のご説明に関して、ご質問等があればお受けいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） それでは、資料1から資料6までの議事を終了いたします。

続きまして、下鶴先生の講演をお願いしたいと思います。

講演「2023年のヒグマの大量出没はなぜ起きたのか？」・・・下鶴先生

●北海道（遠藤） 下鶴先生、ありがとうございました。

皆様、改めて盛大な拍手をお願いいたします。（拍手）

5. その他

●北海道（遠藤） それでは、全体を通してご質問があればと思いますけれども、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（遠藤） 特にならなければならぬ、本日予定されている議事は以上となります。
最後に、次回の地域連絡会議の開催予定である羅臼町の湊屋町長からご挨拶をいただきたく存じます。

●湊屋羅臼町長 皆様、大変長時間にわたりますご審議、ご報告をいただきまして、ありがとうございます。

また、下鶴先生には、貴重な講演をいただきました。私どもは、知床に住む中で、クマとのあつれき、また、クマに関わるいろいろな取組は非常に重要だと考えておりますし、ここに住んでいる方々の安全も含めて、また、クマの命も含めていろいろなことを考えていかなければいけない立場だろうと思っておりますので、これからも皆さんにご協力をいただくことが多々あると思っております。

また、科学委員会をはじめ、様々な委員会の中でご議論していただいたことをこの地域でしっかり根づかせていくことが非常に大事だろうと思っております。

今回は羅臼町で行うことになっておりますので、また皆さんとお会いして、ご報告、ご議論をいただければと思っております。

本日は、大変お疲れさまでございました。

●北海道（遠藤） 湊屋町長、どうもありがとうございました。

皆様のご協力を賜りまして、無事に議事を終えることができました。大変ありがとうございました。

6. 閉会

●北海道（遠藤） 以上をもちまして、第2回知床世界自然遺産地域連絡会議を閉会いたします。

次回の地域連絡会議は、本年11月頃の開催を予定しております。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上